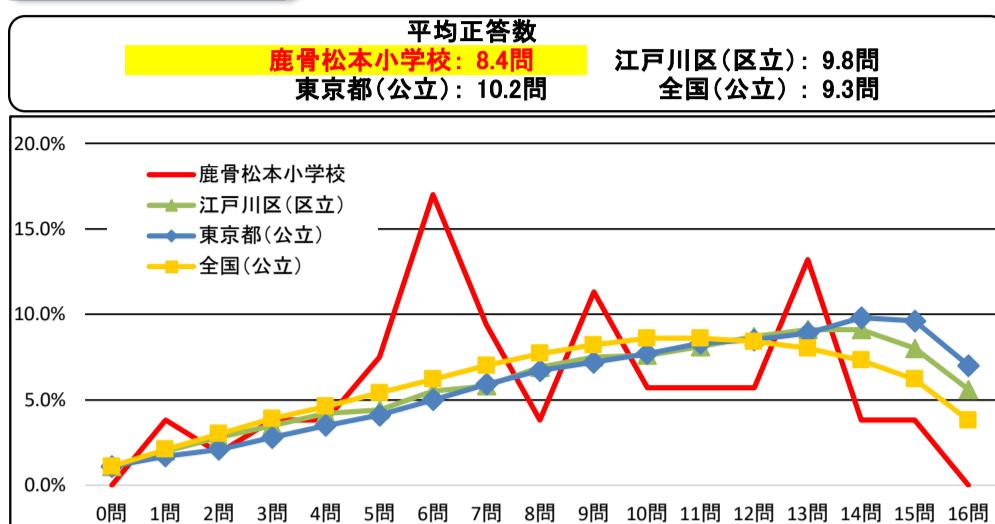


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】鹿骨松本小学校

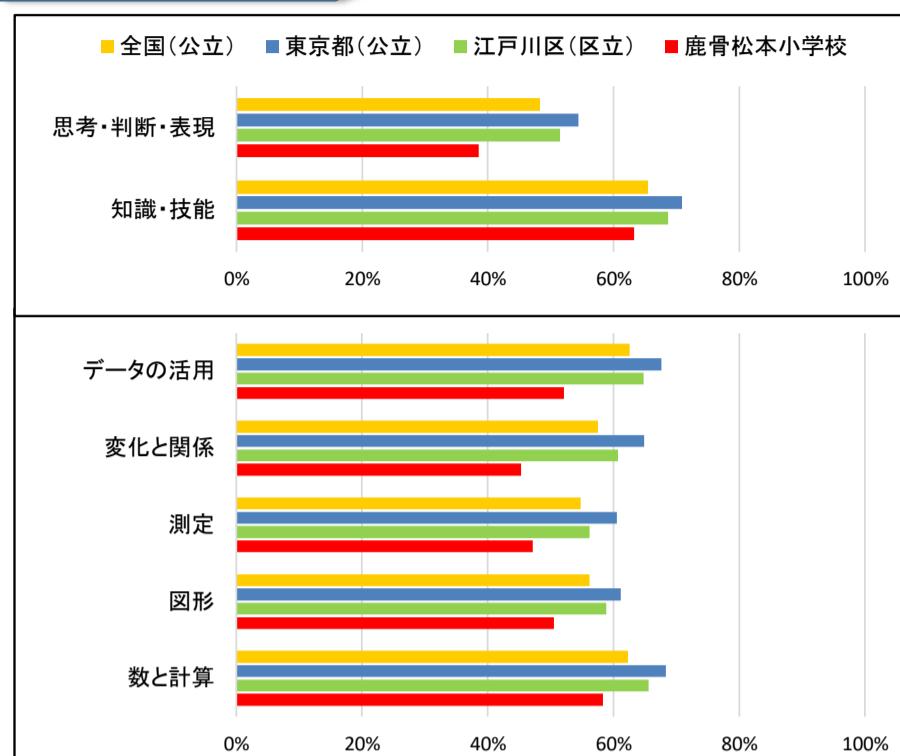
正答数分布



【平均正答率の差】

| | |
|------------|-------|
| 鹿骨松本小学校 | 52% |
| 江戸川区(区立) | 61% |
| 東京都(公立) | 64% |
| 全国(公立) | 58% |
| 都との差(ポイント) | -12.0 |

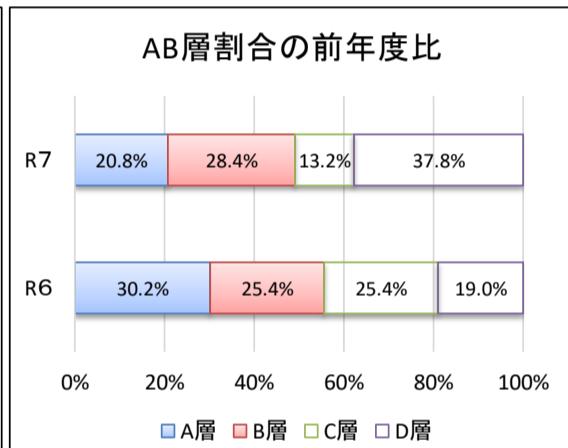
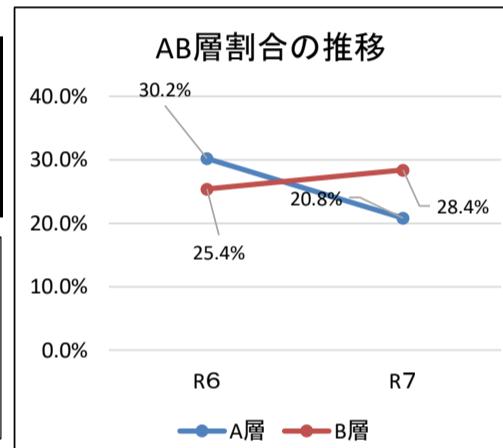
「領域別」の結果



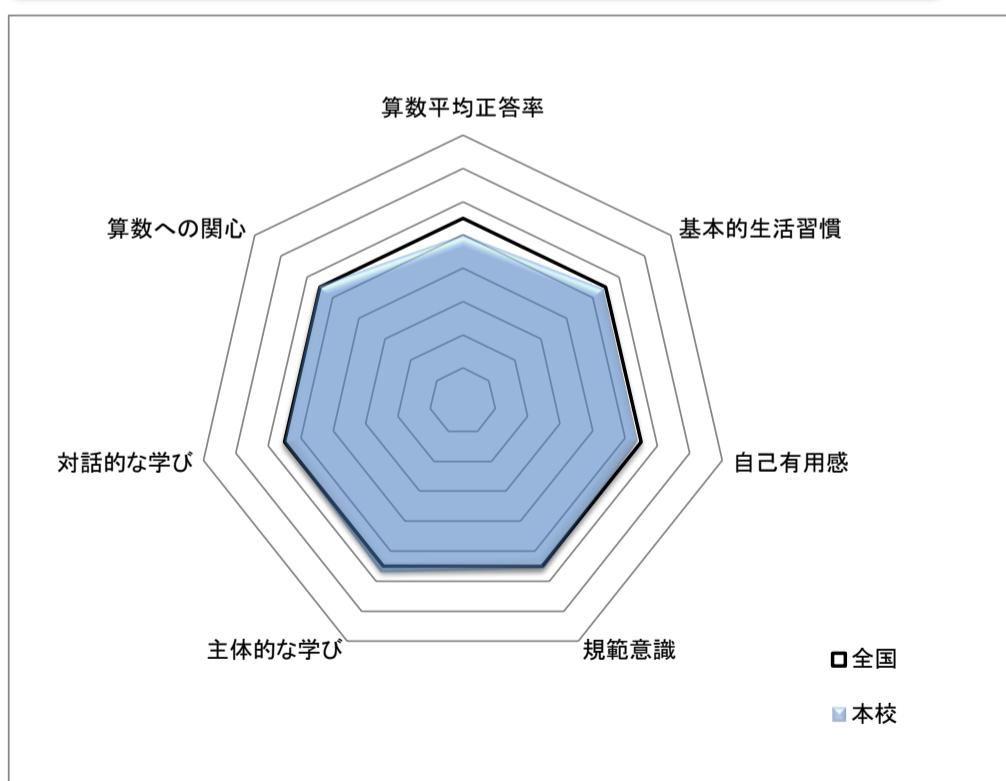
四分位における割合 (都全体の四分位による)

| 算数 | A層 | B層 | C層 | D層 |
|----------|--------|--------|-------|-------|
| | 14~16問 | 11~13問 | 7~10問 | 0~6問 |
| 鹿骨松本小学校 | 20.8% | 28.4% | 13.2% | 37.8% |
| 江戸川区(区立) | 22.7% | 25.9% | 27.9% | 23.5% |
| 東京都(公立) | 26.4% | 25.7% | 27.6% | 20.3% |
| 全国(公立) | 17.3% | 25.0% | 31.4% | 26.3% |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- 「算数への関心」に関する内容である「算数が好き」に肯定的な回答をした児童は55.5ポイントで、全国57.9と比較し-2.4ポイントであった。
- 「算数の授業がよく分かる」に肯定的な回答をした児童は81.4ポイントで、全国78.3と比較し+3.1ポイントであった。
- 自己有用感、規範意識に肯定的な回答をした児童は、全国と同程度であった。

《家庭・地域への働きかけ》

- 計算だけでなく「考える問題」にも取り組む習慣づくりを応援してもらう。
- 家庭学習では、短時間でも継続して取り組む姿勢の定着を協力してもらう。
- 買い物・料理・時刻・地図など、日常生活の中で「数の意味」や「量・変化」を話題にする機会を増やしてもらう。
- 地域の図書館等の利用を促し、学習時間の格差を縮小する。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
 - 本校の平均正答率は52%で東京都平均64%より12ポイント下回る。
 - 四分位では、A・B層が49.2%で区48.6%よりわずかに高い一方、D層が37.8%と区23.5%・都20.3%より大きい。
 - 領域別では、「知識・技能」は63.3%で一定の成果がみられるが、「思考・判断・表現」は38.5%と課題が大きい。
 - 内容領域では特に「測定」「変化と関係」「データの活用」で、区・都平均と10~15ポイントの差がある。

《学校の取組》

- 教員の指導力向上
 - 学力向上・研究部で「思考を言語化させる発問」「根拠を説明させる板書構成」を重点化する。
 - ICTを活用した共有・比較活動を取り入れ、思考の可視化を進める。
 - 授業相互参観を通じて、単元構想の質を高める。

《基礎学力の保障》

- 朝学習(算数週2回)を位置付け、計算・基礎技能の定着を図る。
- 単元前後での形成的評価をより明確化し、つまずきに応じた手立てを早期に行う。
- 5・6年の発展的課題の充実を図り、AB層の割合を安定させる。
- 希望制放課後補習教室の実施

《学習習慣の確立》

- 学期1回の江戸川っ子study week(家庭学習週間)を充実させ、計算と文章題の両面を扱う。
- 昼読書と組み合わせ、文章問題への抵抗感を減らす。
- 家庭での学習時間の差を縮める働きかけを継続する。

《AB層の育成》

- 基礎問題の確実な定着と活用問題への橋渡しを重視し、朝学習(算数)を通して計算力・基礎技能の向上を図る。
- 思考力問題での課題を踏まえ、「図や言葉で説明する活動」を単元に位置付け、考え方を可視化する学習を強化する。
- 単元末の振り返りで自分のつまずきに気付く機会をつくり、AB層に向かう学習姿勢と習慣を身に付けさせる。
- ドリルパークの活用により、個々の弱点補充とAB層へのステップアップを継続的に支援する。